

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校国語）

逗子市立 逗子 小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>全体の平均正答率が68%であり、県及び全国平均と比較し同程度のポイントであった。しかしながら、学習指導要領の内容のうち、書くことの分類では、全国平均と比較して約3%下回る結果となった。</p>
<p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>○漢字を文の中で正しく使うことを出題の趣旨とした問いに対する、正答率が県及び全国平均を7%上回るものもあった。【3三ウ】                  ●漢字を文の中で正しく使うことを出題の趣旨として問いに対する、正答率が県及び全国平均を下回るものもあった【3三ア】                  ●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことを理解しているかをみる問いに対する正答率が県及び全国平均の1%下回る結果となった。【34】</p>
<p>話すこと・聞くこと</p>	<p>●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問いに対して、正答率が県及び全国平均を3%下回る結果であった。【1四】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかをみる問いに対して、正答率が県及び全国平均を5%上回る結果となった。【三1】                  ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問いに対して、正答率が県及び全国平均を3%下回る結果となった。【三2】</p>
<p>読むこと</p>	<p>●登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかをみる問いに対して、正答率が県及び全国平均を2%下回る結果となった。【二1（1）】                  ●人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかをみる問いに対して、正答率が県及び全国平均を2%下回る結果となった。【二2】</p>
<p>児童質問紙 国語に関連する質問 問49～52</p>	<p>「国語の勉強は大切だと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を合わせた割合は、県及び全国平均をはるかに上回る結果であった。</p>

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（算数）

逗子市立 逗子 小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>全体的に、二極化が大きい。算数を苦手とする児童の無回答率が高い。 特に、算数を得意とする児童でも、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を論理的に考察することに課題が見られる。</p>
<p>(算数) 数と計算</p>	<p>○正答率が高く、基本的な計算能力が身につけていることが分かる。 ●分数の割り算において正答率が下がる傾向にある。</p>
<p>(算数) 図形</p>	<p>○各図形の面積の求め方の定義を理解している。 ●図形を構成する要素に着目すること、図形構成について考察することなど、問題を解決するための諸要素に見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明することに課題がある。</p>
<p>(算数) 変化と関係</p>	<p>○比例関係を活用したり、割合を求めたりするなど、二つの数量の関係について考察する力が身に付いている。 ●文章の題意が捉えられないことを理由に、無回答の児童もいる。 百分率で表された割合を分数で表したり、比較量を求めたりすることに課題がある。</p>
<p>(算数) データの活用</p>	<p>●資料から必要とする情報を取捨選択することができない傾向にある。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 53～60</p>	<p>算数の学習を、実生活と結び付けて考えたり、その有効性を実感したりすることができてない児童が多い。</p>

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校理科）

逗子市立 逗子 小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○観点①(知識・技能)では、本校の平均正答率と全国平均と比較して1ポイント下回る結果となっている。観点②(思考・判断・表現)では、本校の平均正答率と全国平均と比較して3ポイント上回る結果となっている。</p> <p>●平均正答率だけを見れば、全国の平均より上回ってはいるが、実験で得た結果を問題の視点で分析、解釈し、自分の考えを記述することに課題が見られる。</p>
<p>「エネルギー」を柱とする領域</p>	<p>○実験の結果を整理して記録することは、80.8%と高い。</p> <p>●「光の性質を基に、鏡を操作して指定した的に反射させた日光を当てることのできる人をえらぶ」は、21.7%と低い。“日光は直進する”基本を確認する必要がある。また、「実験結果から得た結果を分析して考えを記述する」は、30%と低い。結果から考察する経験を増やす必要がある。</p>
<p>「粒子」を柱とする領域</p>	<p>○「実験結果から水溶液の凍る温度を見いだし、問題に対するまとめを選ぶ」は、75.8%だった。</p> <p>●メスシリンダーという器具について理解し、適切な使い方をすることが身につけていないようで60.0%で全国平均よりも8%低い。また、実験結果から根拠をあげて自分の考えを書くことが正答率30%という結果だった。</p>
<p>「生命」を柱とする領域</p>	<p>○目の前にある植物や昆虫などを的確に観察し、必要な条件を理解して記録することができているようで、全国平均を上回っていた。昆虫の体のつくりについても理解が高かった。</p> <p>●育ち方や食べ物の特徴など観察して得た情報を複数の視点で分析することが全国平均から2%低かった。</p>
<p>「地球」を柱とする領域</p>	<p>○冬の天気と気温の変化や、夜の天気と気温の変化は、日常の生活経験から考えやすいのか、問題の視点で分析し、解釈して自分の考えをもちやすかった。</p> <p>●「鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化したのか」を書く問題で、水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解するのが全国平均より2%低かった。目に見えない現象を理解するのが難しい。</p>
<p>児童質問紙 理科に関連する質問 問 61～69</p>	<p>○子どもたちは理科が好きと答える子、大切だという子が半数近くいた。目の前で理科の実験をして現象を見ることで、授業内容が分かりやすいようだ。</p>

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

逗子市立 逗子 小学校

## 特徴的なことや課題と考えられること等

- 自分には良いところがあると捉えている児童の割合が、国や県と比較し高い。
- 学校に行くことが楽しいと感じている児童の割合が国や県と比較して高く、自分と違う意見について考えることや友だちと協力することに楽しさを感じている児童が多いことがわかる。
- 学校の授業以外で（塾を含む）勉強をしていると答える児童が国や県と比較し高い。
- 家にある本の数が多く、学校の授業以外で1日に30分以上読書をしている児童の割合が高い。
- ICT環境が整ってきたことで、ICTを活用した授業を実施している割合が多く、学習の中で、他の友だちと意見を交換したり、調べたりするために活用している児童の割合は国や県と比べて多い。また、学習の中でICT機器を使うのは勉強のためになっていると捉えている児童も多い。
- 5年生までの授業で、自分の考えが上手く伝わるような工夫をした表現活動の機会があり、できていたという自己評価をしている児童が国や県と比較し多かった。
- 友だちと話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると評価する児童が多い。また、わからない点は見直し、次の学習につなげることができていると考える児童の割合が高い。
- 先生が、自分の良い所を認めてくれていると回答する児童の割合が県や国に比べてやや低い。
- 全国に比べ、いじめに対する危機意識が低い。
- 人が困っているときに進んで助けていると回答する児童の割合が国や県と比較し、やや低かった。また、人の役に立つ人間になりたいと捉えている児童もやや低かった。

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市立 逗子 小学校

## 調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・授業の中で自分の考えが上手く伝わるような工夫をした表現活動の機会を入れた授業づくりを続けていく。
- ・塾に通っている児童が多いこともあり、通っていない児童との学力に差が生じないようにするためにも、家庭学習が塾を利用していない児童にとってより取り組みやすいものとなるように工夫していくことが求められている。また、学習で分からない部分を家族に聞いて解決することができる児童も多いため、家庭と学習での課題を共有していくことで、児童がより安心して学習に取り組めると考えられる。
- ・読み聞かせボランティア、市の図書館、夏休みの読書感想文等を利用して、児童が読書をする機会を計画的に設けていく。
- ・全国に比べ、ICT機器を利用していると回答する児童の割合が高い。引き続き、児童にとってICT機器が身近で利用しやすい環境を用意する。また、ICTの活用技能の差によって児童の学びに大きな差がでないように、校内研究として教員同士でICT活用スキルを高め合ったりICT活用についての意見交流の場を増やしたりすることで、教員のICT技能の向上を図っていく。また、ICTを活用することで、すべての児童にとって「わかる授業」づくりを行っていく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策で、実施ができていなかった異年齢交流や学年内、学級内での交流を計画的に取り入れ、人の役に立ちたいという気持ちを持つ児童の意欲を育むとともに、褒める指導とも絡めながら、児童の自己肯定感の向上を図っていく。
- ・道徳の学習や学校生活アンケート等を利用して、いじめに対する意識を啓発していく。